

第3章 将来像・基本理念・目標の設定

1 将来像

本市は、これまでも「快適な生活環境の保全」と「公共用水域の水質保全」および「浸水の防除」に取り組んできましたが、今後も今まで以上のサービスを提供しなければなりません。このため、最適な下水道サービスを提供し、「安全・安心で安定した下水道」を目指します。

2 基本理念

これからは、施設の老朽化が進み、加えて、大地震や大雨がいつ発生するか分からない状況であることを考えると、本市の公共下水道事業は、さらに運営体制と災害への備えを強化していく必要があります。

これから未来に向けて、限られた財源と資源のなかで、安定して下水道の目的を果たすためには、市民と共に事業運営をすすめていくことが非常に重要と考えられます。

以上のことを踏まえ、今後 10 年間の下水道事業の取組方針として、宝塚市下水道ビジョン 2025 の基本理念を以下のように設定します。

安全・安心で市民と共に未来へつなぐ下水道
～環境との共生を目指して～

3 目標の設定

1) 概要

「宝塚市下水道ビジョン2025」は、「たからづか都市計画マスタープラン」や国の「新下水道ビジョン」における「循環のみち下水道」の持続のための取組み（クライシスマネジメントとアセットマネジメント）に対応した「安全・安心」、「環境との共生」と、これらの項目を達成するための「基盤の強化」の観点から施策を構成します。

2) 安全・安心

安全・安心における課題は主に、「浸水対策」と「地震対策」です。そのため以下の指標について改善の目標を設定します。

表- 11 成果を示す指標または成果の状況「浸水対策」

指標名	単位	優位性*	現状	目標	備考
			平成26年度 (2014年度)	平成37年度 (2025年度)	
①下水道（雨水）施設整備延長比率	%	↑	79.1	83.0	第5次総合計画目標 平成32年度(2020年度) 目標値82.0%
②浸水対策必要地域の解消	地区	↑	23	26	全26地区
③雨水ポンプ場の再構築数量	箇所	↑	0	2	全2箇所

※優位性 「↑」：高いほど良い 「↓」：低いほど良い 「-」：いずれでもない

表- 12 成果を示す指標または成果の状況「地震対策」

指標名	単位	優位性*	現状	目標	備考
			平成26年度 (2014年度)	平成37年度 (2025年度)	
①重要な汚水管路の耐震化率	%	↑	20.5	100.0	第5次総合計画目標 平成32年度(2020年度) 目標値47.4%

※優位性 「↑」：高いほど良い 「↓」：低いほど良い 「-」：いずれでもない

3) 環境との共生

環境との共生における課題は主に、「老朽化対策」と「普及対策」です。そのため以下の指標について改善の目標を設定します。

表- 13 成果を示す指標または成果の状況「老朽化対策」

指標名	単位	優位性※	現状	目標	備考
			平成 26 年度 (2014 年度)	平成 37 年度 (2025 年度)	
①管渠改善率	%	↑	0.5	2.7	改築した管渠の割合 (污水管渠のみ)

※優位性 「↑」: 高いほど良い 「↓」: 低いほど良い 「-」: いずれでもない

表- 14 成果を示す指標または成果の状況「普及対策」

指標名	単位	優位性※	現状	目標	備考
			平成 26 年度 (2014 年度)	平成 37 年度 (2025 年度)	
①下水道（污水） 人口普及率	%	↑	98.7	99.0	第 5 次総合計画目標 平成 32 年度(2020 年度) 目標値 98.8%
②水洗化率	%	↑	99.0	100.0	

※優位性 「↑」: 高いほど良い 「↓」: 低いほど良い 「-」: いずれでもない

4) 基盤の強化

基盤の強化における課題は主に、「経営健全化」と「市民参画」です。「経営健全化」の指標について改善の目標を設定します。

表- 15 成果を示す指標または成果の状況「経営健全化」

指標名	単位	優位性※	現状	目標	備考
			平成 26 年度 (2014 年度)	平成 37 年度 (2025 年度)	
①経常収支比率	%	↑	102.8	103.0 以上	
②経費回収率	%	↑	68.1	100.0 以上	

※優位性 「↑」: 高いほど良い 「↓」: 低いほど良い 「-」: いずれでもない

市民による下水道の「自分ゴト化」を醸成するため、市民とのコミュニケーションのより一層の充実に努めることを「市民参画」の目標とします。